

建築と土木の距離を埋める

NPO 法人建設技術監査センター

専務理事 成岡 茂

成岡建築設計・技術士事務所 所長



この度、CNCP サポーターとして参加させていただきました。専門は建築です。土木の世界とはだいぶ距離のある世界で生きてきました。しかし、先日、当センターの創立 10 周年記念講演会で講演いただいた元土木学会会長で現 CNCP 代表理事の山本卓郎様からは、「土木は Civil Engineering と呼び市民工学である。土木学会の 4 つの目標として①社会安全 ②国際交流 ③社会貢献 ④市民交流を掲げている。」とのお話がありました。そして CNCP は市民参加を謳いワークショップなどにも取り組んでいます。その流れでいうと建築の世界では昔から計画設計の時点での使い手参加 User Participation を取り入れていています。これに比較して土木の世界は、ダムや橋、トンネルなどおよそ市民参加という概念には縁遠いのではないかと考えていました。近年、河川の分野で沿川の住民参加による河川管理など市民を意識した行政が行われているのを知り、その斬新性に驚いた記憶があります。

現在は、公共施設の更新が叫ばれ、市民にも参加いただき適切な維持管理を行う必要があります。その意味で、土木学会や CNCP が市民を意識した取組みを進めようとしていることは、正に時代の流れを捉えたものであり、私など建築やまちづくりを専門とする者も参加する余地ができてきたのではないかと歓迎しています。

私自身 CNCP では、現在「南房総 CCRC 事業研究会」に参加しています。今後、団塊の世代がさらに年輪を重ねた時に、人生の豊かさとキャリアを生かし生涯を安心して過ごせる場を今から房総半島に準備して、地域と連携した終の棲家をつくっていきたいと考えています。

建築関連技術は、主に現役時代の職場だった千葉県庁で学びました。営繕行政では新設高校を大量に建築しました。その後担当した建築行政では、建築主事として敷地単位での適法性を審査する仕事でしたが、敷地単位での建築の視点だけでは、街並み整備については限界があると感じました。また宅地行政では大規模開発や市街化調整区域での許認可を担当しました。千葉ニュータウンや幕張ベイタウンでは事業の進め方やデザイン調整の意義について学びました。NPO 活動推進行政では市民参加の大切さを実感しました。

また、10 数年前からは NPO 法人伝統木構造の会で、伝統木造の素晴らしさを学び、その普及啓発に取り組んでいます。当センターでは、市町村の工事監査、公募型 PDB (Proposal Design Build) による庁舎建設、子ども園、学校など市町村に対する建築支援、工事検査代行などを行っています。

CNCP サポーターとして私が土木の皆さんと一緒に夢を実現するために頑張ることで、建築と土木の距離を埋める役割を少しでも果たせるよう努力していきたいと考えています。

